

デジタル・データ活用による新たな価値創出に向けた 業務・組織の目指す姿の構想策定支援

デジタル・データを活用した業務・組織への変革（DX）に向けた将来構想における課題

昨今の急激な環境変化を受け、多くの企業は従来の属人的で経験に頼る業務(営業・開発・生産など)から、デジタル・データ活用(データドリブン)による効率的な業務のあり方に転換し(DX)、顧客成長への寄与を通じた自企業の競争力の維持・向上が求められています。その変革に向け、まずは**社内で目指す姿を検討する構想策定に着手するものの**、システムの課題など具体的話に偏ってしまったり、上層部やメンバーとの合意形成に躓いたり、**多くのリソースを費やしつつも結果として失敗する状況**が散見されています。

散見される課題状況	課題状況に陥っている詳細と原因
メンバーでワークショップなどの話し合いに着手したものの、 <u>どのように進めていいかわからない</u> 	体系的な進め方が出来ず、課題、施策、システム・ツールなど異なる論点の意見が多く出てしまいとりとめのない議論になり收拾がつかず、結果として何をどのようにまとめればいいのか分からない状況となってしまう
現状の業務メンバーを中心にアイデアを出し目指す姿を描いたが、 <u>現状とあまり変わらない</u> 	現状の業務メンバーが中心のため、現状の業務・システムの課題ばかりに目がいき、 現状の課題解決を主とした議論 になりがちで、現状維持バイアスに偏る意見なども出てくることで、抜本的に業務を変える絵姿を描きにくくなってしまふ
部長・課長などで将来構想を提起したが、 <u>社長・役員との合意を得られず止まってしまった</u> 	メンバーで目指す姿を定義し社長・役員層に提示したものの、 上層部からの「本当にこれでよいのか」「なぜそうなのかのWhy?」に答えることが出来ず 、結果合意形成に失敗してしまい、検討が止まってしまっている状況

目指す姿の検討と導出に躓く

相反する意見 どのように進めればいいのか？

現状の課題中心の意見 システム・ツールに偏る議論

「なぜ？」に答えられない

企画部門担当者、各部門やIT・デジタル部門の担当者

豊富な実績・知見と構想策定に向けたフレームワークを活かし検討と推進をリード

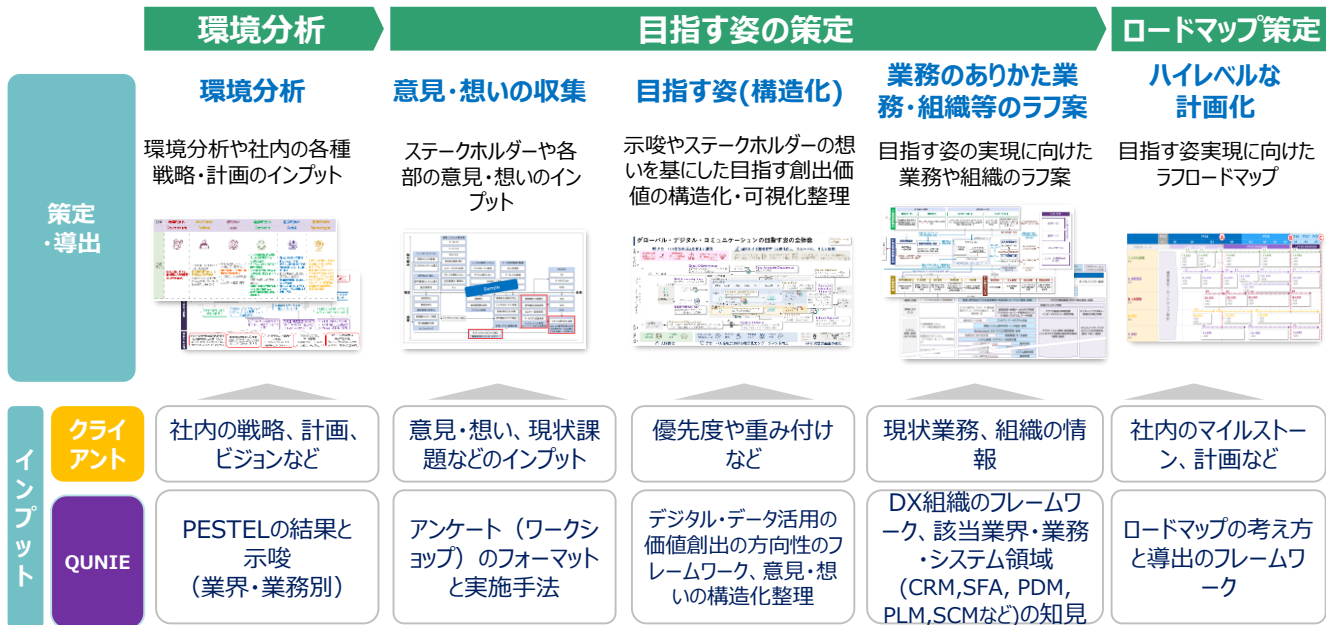
構想策定では、自企業の顧客に対しての「**目指す提供価値**」から考え定めていくことが肝要となります。QUNIEでは、業界・業務知見とデジタル・データ活用による価値創出の方向性のフレームワークを基に、企業とその顧客に向けた提供価値を環境分析と想いにもとづき論理構造的かつ分かりやすい表現で、**上層部・メンバーが腹落ちをして合意・着手できる目指す姿の構想策定とロードマップの策定をリード**していきます。

構想策定の要素	陥りがちな課題状況	QUNIEのコンサルティングの価値
環境変化による企業への示唆 	体系的な環境分析が不足し、目指す姿の導出根拠が乏しくなり「なぜ」の説明が難しい状況	PESTELの環境分析に基づき企業の課題・方向性の示唆を導出し、以降の検討の背景根拠として活用していきます
デジタル・データ活用による価値創出の方向性 	デジタル・データ活用にて具体的な達成価値のイメージが出来ず、手段の検討に終始してしまう	デジタル・データ活用による企業の価値創出のあり方の独自フレームワークをもとに目指す価値創出を明示します
将来業務・組織のあり方 	現状の業務やシステム課題に囚われがちで、抜本的な業務変革の検討に着手できない	業務・業界動向などの知見と、価値創出の方向性に基づき、 クライアント独自の将来業務・組織のあり方 を検討します
多様な示唆をまとめる構造化 	上層部やメンバーの意見などが多様な観点・レベル感となり、その取りまとめが困難となる状況	多様な意見・情報をもとに、関係者で同じ目線・理解できるかたちで 論理構造的に目指す姿を導出 します
目指す姿の分かりやすい絵 	文言を中心としたわかりにくい表現となりがちで、関係者の腹落ちが十分に得られない	多くの人が魅力を感じ共感できるように、 わかりやすくイメージしやすい青写真として目指す姿をデザイン します
実現のロードマップ 	単純にタスクを積み上げるだけとなってしまう、実現性などを考慮しないプランとなってしまう	企業変革に向けて必要な施策の独自フレームワークを基に、 包括的で実現性のあるロードマップ を策定します

QUNIEが豊富な実績・知見、独自のフレームワークと、多様な業務・システム領域の知見(CRM/SFA, PLM/PDM, SCMなど)をもとに、貴社のデジタル・データ活用を行う業務・組織の構想策定をサポートします

デジタル・データを活用した業務・組織のありかたの構想策定のステップのイメージ

構想策定においては、多くの関係者と合意をとりながら進めていく必要があるため、内外の包括的な情報をインプットとして、演繹的に目指す姿を導出し、論理構造的・視覚的にわかりやすく進めていくことが肝要となります。QUNIEでは、豊富な実績をもとにしたフレームワークと各業界・業務・システム領域の知見も交え、目指す姿と組織・業務のラフ案、ロードマップの導出を支援します。



Why QUNIE ?

QUNIEのコンサルタントは、他社には無い下記のような強みを持って、クライアント企業のデジタル・データ活用を通じた価値創出を行う業務・組織への変革(DX)に向けた目指す姿の構想策定を、その実現に向けた以降のプロジェクト計画・実行整備推進のステップにつなげる形で支援いたします。

環境変化にもとづく将来業務・組織構想策定に向けた豊富な知見とフレームワーク	システム起点の検討ではなく、環境変化とクライアント企業の戦略やその顧客ニーズなどにもとづく「なぜ」から論理的に考え、目指す姿を導出し、その理解に立ってクライアント側の立場でともに目指す姿の具体整備につなげていく一連の変革プロセスの豊富な実績とそのためのツールセットを有しています。
多様な業界・業務(営業・マーケティング・開発・生産・物流)や関係する主要なシステム(CRM/SFA/PLM/SCMなど)の知見	具体的な目指す業務やシステムのあり方の検討に向けて、QUNIE全体で多様な業界、業務、またそれに関係する各システム領域の知見を広くかつ深く有しており、導出された構想を実現する具体的なあり方や手段も含め導出、提示する知見を有しています。
マネジメント層・メンバーの期待・考えを踏まえつつ、目指す姿の構想内容の合意形成を実現する能力	豊富な大手企業の経営層との合意形成・レポート・協働の経験にもとづく、複雑な内容を視覚的、論理的に、簡潔にわかりやすく伝える各種表現力と論理的なストーリーの構成力をもって、目指す姿の構想やその後のステップに向けた合意形成を円滑に支援します。